

# 上高地の下水道

## —その経緯と計画立案—



松本市ホームページ

NPO21世紀水倶楽部理事  
昆 久雄

# 1. 特定環境保全公共下水道の役割

湖沼の環境保全や農山漁村における排水対策として、人口規模の小さい集落(1000人以上)に対して、特定環境保全公共下水道が実施されています。下水道統計より、2015年現在の特定環境保全公共下水道の処理場は895処理場によっており、山岳、海浜、観光地の河川、湖沼、海域の水質保全を担っています。昭和50年に創設されました。

### 日光市湯元水処理センター

全国に先がけて「オキシデーションディッチ処理方式」を採用した湯元水処理センターは、ラムサール条約に登録された湿地の一部で周囲2.2kmの湯の湖畔にある高原の温泉地にあります。昭和41年に供用開始されました。



月刊下水道 Vol. 38 No. 1

### 箱根町仙石原終末処理場

箱根、元箱根、湖尻(および仙石原)の下水は、全て仙石原浄水センターに集めて浄化した後に早川に放流しています。この下水道事業は、芦ノ湖早川流総計画を受けて、特定環境保全公共下水道のモデル事業として計画が進められました。



箱根町ホームページ



<https://reserve.resort.co.jp/hotels/hdv/hakone/front/pdf/wanpaku1008.pdf>

# 2. 上高地の紹介

清らかな梓川に架かる河童橋から望む山々の雄姿、大正池や明神池、徳沢など、山と緑と水の風景が織りなす上高地。「神の降り立つ地(神降地)」とも称される日本屈指の山岳景勝地として、年間150万人もの人々が訪れ賑わいをみせています。

日本にやってきた英国人宣教師、W・ウェストンは1896(明治29)年に著した『日本アルプス登山と探検』の中で、自らが登った上高地と穂高連峰、槍ヶ岳を広く世界へ称賛しました。

その後国の名勝及び天然記念物に指定され、それまで山小屋や温泉宿もまばらであった高地に、初の山岳リゾートホテル(現・上高地帝国ホテル)が開業しました。

1940(昭和10.20)年代に入ると山岳ブームはますます加熱し、観光客は増加の一路をたどり、県道は整備されてバスやマイカーの乗り入れも頻繁となりました。しかし反面、自然への影響は深刻な問題となったのです。

上高地観光旅館組合ホームページより



上高地観光旅館組合ホームページ

# 3. 上高地下水道の経緯

観光客の増加とともに、清流の代名詞ともいえる梓川の水質悪化が、顕著になってきました。昭和61年に信濃毎日新聞に小梨平キャンプ場前梓川の大腸菌検出の記事が出され、旧安曇村において大きな問題となりました。こうした状況から、梓川の水質保全を目的に、旧建設省と旧安曇村および日本下水道事業団が協議を開始し、昭和63年に、安曇村特定環境保全公共下水道の事業認可がなされました。

この図表には、下水浄化センターの供用開始前後の上高地地区のBODと大腸菌群数の測定結果の推移を示しています。  
「上高地浄化センターの地質調査とその対策に関する調査報告書」平成12年1月安曇村 日本下水道設計株式会社

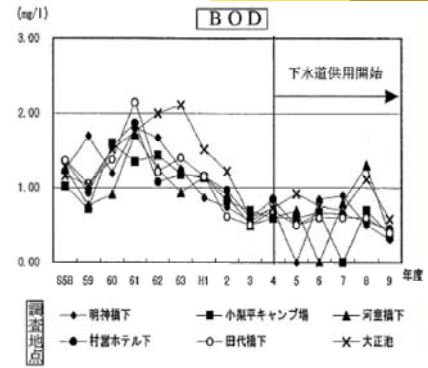


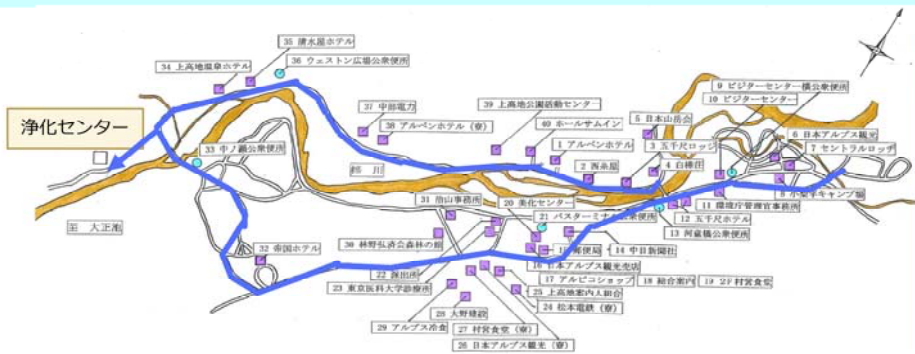
表 2.2.1 大腸菌群数測定結果

測定地点	測定結果 (単位: MPV/100ml)									
	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67
明神橋下	130	13	50	22	42	17	29	9	29	110
小梨平キャンプ場	300	120	330	840	2100	94	150	71	72	1,100
河童橋下	110	450	290	750	10,000	23,000	8,400	78	130	390
村宮ホテル下	6,200	16,000	64,000	4,800	560	79,000	41,000	10,000	3,500	1,700
田代橋下	15,000	1,600	1,700	9,200	11,000	17,000	7,400	4000	430	2,500
大正池	2,100	1,800	780	4,900	1,700	8,800	630	250	150	950

下水道供用開始

## 4. 上高地処理区の施設概要

上高地処理区の処理区域面積は25haであり、梓川の両岸に総延長約4kmの管きよが布設されています。施設が比較的集合分布しているのは、小梨平キャンプ場から田代橋に至る区間で水道。この集合域の周辺地域には、明神池周辺に4施設、大正池のほとりに大正池ホテルがあります。これらの上下流4kmに下水管きよを布設した場合、膨大な管布設費が必要となり、処理区域は河童橋を中心とした区域としました。また、計画当初真直式ではという声もありましたが、地表勾配が十分あること、冬季観光施設が閉鎖されることもあり、自然流下式になりました。



5

## 5. 計画概要

区分	事業計画	平成28年(実績)
処理区域面積 [ha]	25	25
処理人口 [人/日]	4,220から10,520 (内観光人口9,800)	日平均5,138 (内観光人口5,120) 稼働日数 239日
管路延長 [m]	4,191	4,191
処理能力 [m <sup>3</sup> /日]	1,250から1,400	1,400
処理方法	回分式活性汚泥法	回分式活性汚泥法

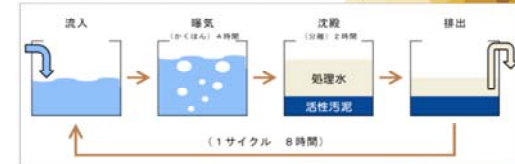


松本市ホームページ

## 6. 浄化センター概要

上高地浄化センターは、旧安曇村営し尿処理場跡地に、建設され平成4年に供用開始しました。上高地浄化センターは、「回分式活性汚泥法」により汚水処理を行っています。冬期閉鎖という特殊な地域柄から運転管理は4月から11月のため、観光客の季節的な変動や冬期間(12月~3月)の施設運転機能停止など、他の処理場にはあまり例を見ない制約条件下での運転管理を余儀なくされています。

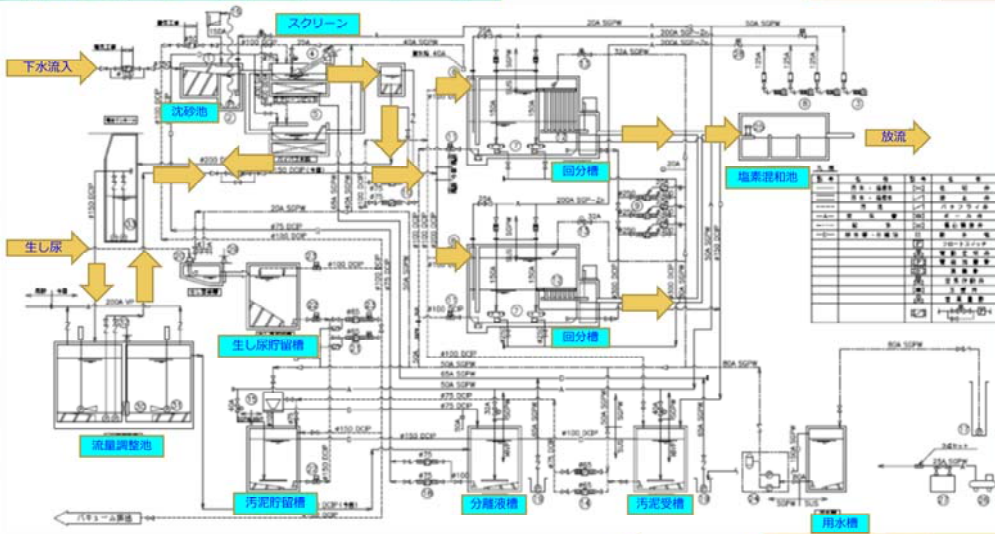
処理方式は、物理化学+生物処理法、オキシデーションディッチ法及び回分式活性汚泥法を比較検討して、回分式活性汚泥法を採用しました。



汚泥処理：汚泥処理は、遠心ろ過濃縮機→汚泥貯留槽→遠心脱水機

6

## 7. 浄化センター処理フローシート



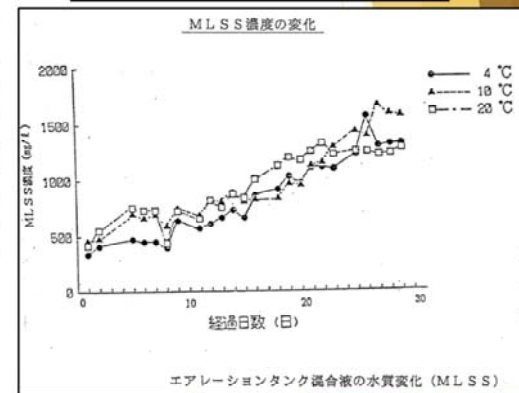
7

## 7. 浄化センター処理フローシート

### 水処理方式の比較検討

項目	物理化学+生物処理法	オキシデーションディッチ法	回分式活性汚泥法
1. 処理水質の安全性	A	A	A
2. 無人化運転への対応	B	A	A
3. 負荷変動への対応性	A	A	A
4. 所要スペース(比率)	B (100)	C (110)	A (75)
5. 運転制御	B *1	A	B *1
6. 建設費(比率)	B (100)	B (99)	A (78)
7. 維持管理費(比率)	B (100)	A (78)	A (78)
8. 常用設備動力	約 103.4 KW	約 101.8 KW	約 104.4 KW
9. 受電容量	150 KVA	150 KVA	150 KVA

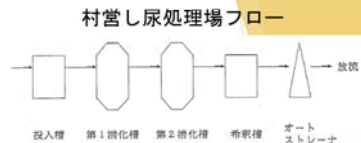
### 恒温室での各水温変化による活性汚泥馴致実験結果



8

## 8. 下水道整備前の汚水の処理状況

放流水の透視度が20cm以下であった。



施設名	用途	雑排水関係		し尿処理関係		し尿浄化槽の点検結果			
		排出源	処理方法	処理区分	処理方法	設置年月日	状況	透視度	備考
Kホテル	旅館	厨房、洗濯、入浴	沈降分離ろ過	単独し尿浄化槽	全ばつ気式80人槽	550.10	良	15cm	流入水量多
	食堂				全ばつ気式100人槽 平面層化式200人槽	536.5 548.11	良 良	6cm 20cm	
Eホテル	旅館	厨房、洗濯、入浴	沈降分離ろ過	単独し尿浄化槽	垂直式40人槽	542.11	良	30cm	流入水量多
	食堂				全ばつ気式50人槽	546.6	良		
SEホテル	旅館	厨房、洗濯、入浴	沈降分離ろ過	単独し尿浄化槽	腐敗タンク332人槽	545.8	良	20cm	槽の老朽化
	食堂								
N山荘	旅館	厨房、洗濯、入浴	沈降分離ろ過	単独し尿浄化槽	分離ばつ気型300人槽	不明	良	20cm	槽の老朽化
	食堂				全ばつ気式100人槽	551.7	良	7cm	散気状況不良
G旅館	旅館	厨房、入浴	沈降分離×2	単独し尿浄化槽	散水ろ床260人槽	550.6	悪	5cm	要清掃
	食堂								
Gロッジ	旅館	厨房、入浴	沈降槽	単独し尿浄化槽	全ばつ気式150人槽	不明	良	15cm	
	食堂				腐敗タンク125人槽	不明	良	20cm	
ホテルS	旅館	厨房、洗濯、入浴	沈降ばつ気ろ過	単独し尿浄化槽	腐敗タンク100人槽	534.10	良	5cm	槽の老朽化
	食堂				腐敗タンク+3次処理170人槽	534.10	良	6cm	
Tホテル	旅館	厨房、洗濯、入浴	—	合併し尿浄化槽	長時間ばつ気方式600人槽	552.9	良	25cm	流入水量多
	食堂								
薑内所	厨房、入浴		沈降分離+接触ばつ気	単独し尿浄化槽	腐敗タンク+接触ばつ気600人槽	530.10	良	6cm	槽の老朽化
甲斐電力	厨房、洗濯、入浴		沈降分離ろ過	単独し尿浄化槽	分離ばつ気型+3次処理17人槽	556.11	良	20cm	
山岳会	厨房、洗濯、入浴		なし	単独し尿浄化槽	腐敗タンク3次処理20人槽	548.3	良	5cm	
環境庁 公衆便所	教育	洗面	—	単独し尿浄化槽		545.			無管理
				単独し尿浄化槽	接触ばつ気330人槽	559.5			

## 9. 現状の周辺施設の汚泥の取込状況

- 上高地浄化センターし尿搬入元
- 徳沢地区 汲取り 4件**  
徳沢公衆トイレ・徳沢ロッジ・徳沢園・日大医学部徳沢診療所
- 明神地区 汲取り 5件**  
明神公衆トイレ・山のひだや・嘉門次小屋・穂高神社奥宮  
明神館
- 浄化槽 3件**  
大正池公衆トイレ
- 大正池地区 汲取り 2件**  
大正池ホテル・松本砂防工事事務所
- 浄化槽 4件**  
その他
- 汲取り 4件**  
日本アルプス観光(寮)・中の湯売店
- 浄化槽 5件**  
中の湯旅館・坂巻温泉
- 冬期用トイレ 5件**  
(冬期専用の便槽を使用)  
大正池公衆トイレ  
中の瀬公衆トイレ・小梨平公衆トイレ・バスターミナル公衆トイレ  
ビジターセンター公衆トイレ

これらにより、上高地周辺地区の梓川及び大正池の水質保全に貢献している。



## 9. まとめ

1. 特定環境保全公共下水道の処理場は895処理場上っており、山岳、海浜、観光地の水域の水質保全を担っている。
2. 昭和61年に信濃毎日新聞に小梨平キャンプ場前梓川の大腸菌検出の記事が出され、梓川の水質保全を目的に、下水道計画が開始された。
3. 上高地処理区の処理区域面積は25haであり、梓川の両岸に総延長約4kmの管きよが布設されています。
4. 上高地浄化センターは、旧安曇村村営し尿処理場跡地に、建設され平成4年に供用開始しました。上高地浄化センターは、「回分式活性汚泥法」により汚水処理を行っています。
5. 冬期閉鎖という特殊な地域柄から運転管理は4月から11月のため、観光客の季節的な変動や冬期間(12月~3月)の施設運転機能停止など、他の処理場にはあまり例を見ない制約条件下での運転管理を余儀なくされています。
6. 上高地処理区周辺の徳沢、明神池、大正池、中の湯地区のし尿、浄化槽汚泥を受け入れ、梓川及び大正池の水質保全に貢献している。

## 「山のトイレを考える研究集会」



上高地浄化センターからの穂高連峰

平成31年2月8日  
NPO21世紀水倶楽部2018年度研究集会

## 上高地浄化センター 建設から維持管理の現状と課題



長野県松本市上下水道局下水道課  
浄化センター所長 武川 義明

はじめに  
松本市の概要 ～水清き城の町～



松本市は、本州及び長野県のほぼ中央に位置する人口約24万の自然環境の豊かな地方都市です。平成の合併により県内で最も広い面積となりました。江戸時代には、松本藩の城下町として栄え、古くから商都松本として国宝松本城を中心に、中・南信の大きな商圏です。国内で最も標高の高い位置に松本空港があり、ジェット化整備により、札幌、福岡へ90分と、広域交流拠点として、また、広域観光の大きな役割をはたしています。

「健康寿命延伸都市・松本」を掲げ、シンクタンク等の都市ランキング調査においても大都市の中で地方都市としては、常に上位にランクインするなど、活力のある魅力的で生きがいのある街づくりに取り組んでいます。

国宝松本城や重文開智学校、松本市出身の草間弥生さんの作品を収蔵する松本市美術館、セイジ・オザワ松本フェスティバルの開催、サッカー松本山雅のJ1昇格など、多くの文化資産や雄大な北アルプスに代表される豊かな自然によって、国内や海外からも多くの人々が観光に訪れています。



国宝松本城

市内には、地下水が豊富に湧き出しており、清水、源池といった水にゆかりのある地名が数多くあります。

自然が作り出す水の恵みを受け継ぎ、湧水群として整備された多くの井戸を大切に利用している市民の姿があり、水の循環の大切さを知ることが出来ます。



水道局源池水源地の親水公園



雪解けの梓川の清流

安曇・上高地地区 ～中部山岳国立公園～

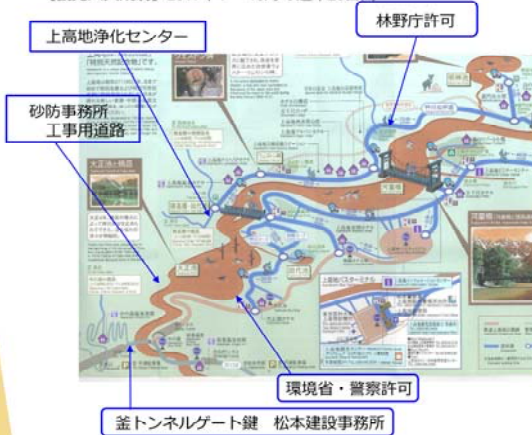
安曇・上高地地区は、松本平の西に位置し、安房トンネル開通により北陸、飛騨地方を毎年通ります。槍ヶ岳や穂高連峰、乗鞍岳など3000メートルを超す雄大な山岳に囲まれて、地区面積の98%を緑の山野が占めています。気候は、日本の屋根といわれる北アルプスの影響を受け、寒暖の差が激しく地区内でも標高差により気温や降水量が異なります。特に厳しい自然環境にあって四季折々の美しさを持つこの地区は、山岳、高原湖、渓谷、温泉、スキーなどの観光資源を持っています。

昭和9年に日本初の国立公園（8箇所）に指定された中部山岳国立公園の最も重要な部分を構成する上高地は、昭和23年に国の文化財（特別名勝及び特別天然記念物）指定された有数の「山岳観光地」です。観光客や多くのアルピニストを迎える玄関口となっています。豊かな自然環境を守る取り組みのひとつとして上高地地区は通年マイカー規制と7月～10月の週末は観光バス規制が行われています。

環境保全 ～自然保護の取り組み

【観光客数】環境省報告、2018年の上高地入り込み人口は114万3693人（前年比112,302人増）

【マイカー規制】通年規制。マイカーの上高地乗り入れは不可  
【観光バス規制】2019年7～10月の週末20日間



野生動物対策 ～上高地に生息する動植物の保護  
(環境省・上高地を美しくする会)

「上高地野生動物対策講習会」への参加



- ・豊かな自然環境を保持する上高地は、ツキノワグマ、ニホンサル、ニホンシカなどが生息している。
- ・駆除ではなく追い払い及び出没抑制対応。
- ・サルは増加傾向。クマの目撃情報はシーズン中100件以上の年。
- ・各施設周辺の外来植物の除去。

上高地浄化センターの建設

中部山岳国立公園に位置する上高地地区の自然環境の保全と、公共水域の水質安全を図るため、昭和63年10月に松本市（旧安曇村）特定環境保全公共下水道事業認可を受け、平成元年から面整備として河童橋を中心とした2.5haの管渠敷設工事に着手しました。合わせて平成元年6月に浄化センターの建設に着手しました。

平成4年6月には、浄化センターの処理能力1,250m<sup>3</sup>/日の一部供用開始しました。



管理棟



計装設備



回分槽



回分槽内

流量調整槽の建設

建設以来、観光客の増加に伴い、7月から8月の夏季及びゴールデンウィーク、紅葉シーズン等の連休時の集中的な入り込みにより計画水量を上回り、1日の時間変動に伴うピーク時の流入水量も時間最大水量を超える状況となったことから、「上高地浄化センター過負荷調査とその対策」を実施しました。

流入水量は、入り込み客数の変動と季節的、時間的にも大きく変動することから、時間変動を正確に把握する必要があります。処理区域内の全観光施設の給水量調査とともに入り込み客数の調査を行いこの調査結果を基に、流入水の量と質の均等化を図ることを目的に平成13年に流量調整槽の建設に着手しました。

平成14年に処理能力を1,400m<sup>3</sup>/日に拡大し現在に至ります。



流量調整槽



回分槽内

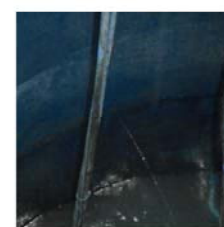
施設の維持管理 4月～11月

- ・運転管理は民間会社によって、水質分析の他、日常的な保守点検や記録軽微な修繕を行い安定した維持管理を行っています。また、予防保全のため計画的にオーバーホールを行います。
- ・観光客の時間的、季節的な変動に伴い流入量が大きく変動するため、常に細心の注意を払っています。
- ・台風、大雨、など気象条件にも大きな影響を受けます。



汚泥はセメント原料資源化

施設の維持管理 ～機器の点検



地下水の流入



## 維持管理の現状 ～冬期間

- ・ 上高地は冬季閉鎖という特殊な地域であり、観光客の季節的な変動に伴う流入量の減少や冬季閉山中の維持管理の困難から運転管理を4月から11月としています。
- ・ 冬季は施設の運転機能を全て停止するために、槽内や各機器の停止、分解清掃、凍結対策など、閉鎖時の重要な作業が40項目以上必要となっています。



立ち上げ前の浄化センター 4月



マンホールポンプ場の点検



浸入水調査

除雪により破損したマンホール蓋の交換や、不明水の浸入を防ぐためのマンホール改修を行います。

### 【修繕・工事の実施】

- ・ 施工期間に限られるため、計画的に修繕を行う。
- ・ 納期のかかるものは除雪後の3月から4月の短い期間中に行う。

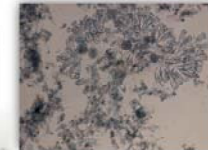
### 【ストックマネジメント計画の策定】中長期的計画

- ・ 既存施設の改修・改築に向けた調査を実施

## 開山準備（立ち上げ）作業（4月9日～）・4月25日運転打ち合わせ



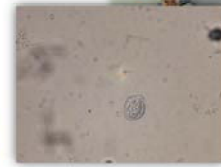
麓の波田浄化センターから大型特殊車両に活性汚泥を積み込む作業



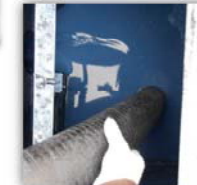
1t スライム

活性汚泥（微生物）

返送汚泥槽内活性汚泥を吸引中



7t スライム



波田浄化センターからの活汚泥性（種汚泥）を上高地に運搬し回分槽内に投入。  
優占種は、Aspidisca、Epistylis、Vorticellaが観察される。

## 水処理の現状と課題

### 【1 流入水の変動による影響】

- ・ 観光客の入り込み状況により流入量、流入負荷の変動が大きい。
- 流量調整槽によって一定のバランスを取りながら対応。
- 4月から5月の入り込み時、8月の入り込み時が特に不安定。
- ・ 土日祝日、大型連休などに入り込みが多い。
- 過去データを参考に処理量を予測し高負荷対応運転。

平成29年業務実績		
項目		安曇地区
浄化センター（処理区）	上高地浄化センター	
行政区域内人口	人	1,525
行政区域内世帯数	世帯	736
処理区域内人口	人	17
処理区域内世帯数	世帯	17
整備面積	ha	25
処理能力	m <sup>3</sup> /日	1,400
管路延長	m	4,191
年間総処理水量	m <sup>3</sup> /年	157,265
日平均処理水量	m <sup>3</sup> /日	658
日最大処理水量	m <sup>3</sup> /日	1,772
日最小処理水量	m <sup>3</sup> /日	12
汚泥結分量（脱水ケーキ）		81

### 30年度運転状況

- ・ 4/9 種汚泥投入時となる流入が少ない。水温低い。
- ・ 越冬の浄化槽汚泥、し尿投入により悪化傾向。
- ・ 4月末の開山とともに流入量増加。
- ・ 5月さらに流入が増加したため不安定。
- ・ 糸状菌、カビ、アコ放線菌が増殖。2か発生、増殖。
- ・ 6月から9月は7t スライム、1t スライム、8t スライムが多く良好。3か、4か流量も想定内安定。
- ・ 11/15閉山。縮小運転
- ・ 11/26～槽内清掃
- ・ 12/3停電作業
- ・ 12/11降雪電気工事中止
- ・ 12/14上高地地区連絡会

### 上高地浄化センターし尿処理量

#### 【2 し尿投入による水処理への影響】

- ・ 負荷の集中により水処理能力が低下 → ピークカット

平成29年度 上高地浄化センター						
月	し尿 (m <sup>3</sup> )			処理水量 (m <sup>3</sup> )		
	搬入量	処理量	搬出量	月合計	日平均	
4月	7.7	0.0	0.0	10,015	334	
5月	80.2	79.5	0.0	21,838	704	
6月	44.3	80.2	0.0	18,739	625	
7月	27.7	39.1	0.0	25,494	822	
8月	106.5	65.3	34.5	27,259	879	
9月	61.5	83.9	0.0	22,260	742	
10月	105.6	105.0	0.0	23,204	749	
11月	32.4	48.1	0.0	8,456	282	
合計	466.1	501.1	34.5	157,265	678	

※年間し尿処理量等について  
搬入量と処理量、搬出量についての計算差異  
これはし尿処理量の正確な量が把握できない等による。

平成30年度 上高地浄化センター						
月	し尿 (m <sup>3</sup> )			処理水量 (m <sup>3</sup> )		
	搬入量	処理量	搬出量	月合計	日平均	
4月	0.0	0.0	0.0	10,916	364	
5月	83.3	81.9	0.0	22,228	717	
6月	23.6	35.0	0.0	18,131	604	
7月	72.1	64.3	0.0	23,970	773	
8月	108.2	32.3	52.0	28,084	906	
9月	46.6	75.0	0.0	25,461	849	
10月	112.0	88.2	0.0	24,525	791	
11月	31.2	73.0	0.0	8,451	282	
合計	477.0	449.7	52.0	161,766	663	

## 閉山準備（立ち下げ）作業（11月）



回分槽内洗浄・点検作業



槽内洗浄・点検



汚水の抜き取り作業



槽内洗浄・点検

- ・ 11月上旬には、一部の宿を除きそれぞれの宿が閉山準備に取り掛かる。縮小運転
- ・ 11月15日の閉山をもって釜トンネルゲートが閉鎖される。
- ・ 平成30年は10月31日に初雪が観測された。本格的な降雪前に急ピッチで作業を行う。
- ・ 運転停止後、内部点検調査を行い短い期間に機器の修繕、工事を行い次のシーズンに備える。

- ・ 山小屋トイレからヘリで運ばれた貯留用カートリッジ内の汚水を特殊車両で吸引し積み替え。
- ・ し尿処理を行う市内のあずさセンターに運搬する。カートリッジは春まで保管。



## 厳しい自然環境

【冬季の点検】～除雪・立ち上げ準備前点検



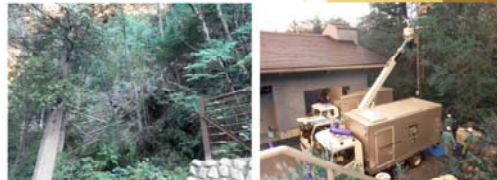
砂防事務所管理道路（4月上旬）

構内の除雪後



## 自然災害の発生と対応

- ・大規模停電（2016・10月 台風16号通過）
- ・大雨による土石流・雨量通行止めによる孤立など



倒木による高圧電線切れ

中部電力電源車から第1柱へ供給



非常用発電車両による電源供給

## 課題の整理

- 1 建設から27年が経過する施設の改築、改修の進め方
- 2 流入水の変動が大きいことによる処理不安定の改善（立ち上げ時、ピーク時対応方法）
- 3 公共下水道としての役割と、ピーク時のし尿受け入れ処理の限界
- 4 厳しい自然環境による施設管理の困難さ
- 5 自然による被害、災害を受けやすい。
  - ・倒木による停電、土砂崩れ、降水量による通行止
  - ・焼岳（活火山）の噴火時対応
- 6 国立公園内であることによる許可関係の制約
- 7 上高地の水環境、梓川の水質保全への取り組み

## 課題への対応

- 1 ・ストックマネジメント計画策定し改築事業化へ（平成30年度基本調査）
- 2 ・過去データに基づく予測運転
  - ・し尿受け入れの不安定要因の解消検討
  - ・種汚泥の投入
- 3 ・ピーク時し尿の広域施設への運搬処理の継続と運搬費用の確保
  - ・公衆トイレ整備の手法
  - ・運転マニュアルの充実
  - ・必要機材の充実 ・スマートメーター等の導入
- 5 ・業務継続計画（BCP）のブラッシュアップ。
  - ・非常時の体制と職員の安全確保
  - ・非常用物資の備蓄
  - ・緊急時、非常時の物資運搬等にヘリの活用
- 6 ・適正で速やかな事務処理。マニュアルの活用・行政の連携
- 7 ・地区連絡会を通じた意見交換の場を継続し、行政と地区が一体となって相互理解を深める。

## 上高地の歴史

- ・文政11年（1828）播隆上人 槍ヶ岳登頂
- ・明治10年（1877）W・カウランド 槍ヶ岳登頂
- ・明治25年（1892）ワルター・グスト 槍ヶ岳登頂
- ・明治29年（1896）グスト 日本アルプス英に紹介
- ・明治40年（1907）2月8日 焼岳大爆發
- ・明治43年（1910）河童橋初代吊り橋架橋
- ・大正04年（1915）6/6焼岳大噴火大正池出現
- ・昭和02年（1927）芥川龍之介小説「河童」
- ・昭和03年（1928）名勝及び天然記念物に
- ・昭和08年（1933）上高地帝國ホテル開業
- ・昭和09年（1934）中部山岳国立公園指定
- ・昭和27年（1952）特別名勝特別天然記念物
- ・昭和37年（1962）6月水蒸気爆發 市内降灰
- ・昭和50年（1975）上高地梓川での釣り禁止
- ・昭和50年（1975）マイカー規制始まる
- ・平成09年（1997）安房トンネル開通
- ・平成08年（1996）通年マイカー規制
- ・平成16年（2004）観光バス規制
- ・平成28年（2016）第1回山の日記念全国大会

## 火山防災 ～焼岳（活火山）と上高地

標高2,455m 日本百名山



## おわりに

美しく生きる。健康寿命延伸都市・松本

先人たちが大切に受け継ぎ国立公園として保護される上高地は、この地に生息する動植物と同様に人間にとっても貴重な財産です。原生の状態で自然が保全されている上高地の中で、浄化センターは、水環境の保全という重要な役割があります。標高1,500mの上高地で公共下水道事業としての役割と、美しい自然を未来に引き継ぐ使命感を持って、日々業務に取り組んでいます。しかし、時として厳しい自然に対しては、無力な部分があります。春の訪れとともに人々を受け入れ、環境への影響を最小限に運転するには、謙虚にできることの限界を知り、常に対応できる備えと心構えが大切です。神々しい自然の美しさと厳しさは、人間の創造を超えた力を持っています。水の循環としての山岳の重要な役割を理解しながら、本物の自然に触れに、ぜひお越しください。



- ・岳都・松本「山岳フォーラム」3/16・17
- ・上高地開山祭2019年4月27日（土）
- ・信州花フェスタ 4月から6月

